

雅邦(朦朧体)の四天王たち
—大観・観山・春草・孤月—



横山大観「夕立」茨城県近代美術館
9月15日～10月9日展示



菱田春草「春色」豊田市美術館
9月15日～10月9日展示

狩野派の終焉
—芳崖・雅邦とその周辺—



【重要文化財】
狩野芳崖「不動明王」
東京藝術大学
9月15日～10月1日展示



橋本雅邦「西行法師図」
東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館
9月15日～10月1日展示

「近代日本画の父」と称される狩野芳崖は4人の高弟がいました。岡倉秋水、岡不崩、高屋肖哲、本多天城の4人です。彼らは芳崖の最晩年に師事し、また芳崖の絶筆「悲母観音図」の制作を間近で目撃しています。そんな彼らは開校間もない東京美術学校において、同期生たちから「芳崖四天王」と称され、目置かれる存在であったと伝えられています。

本展は「芳崖四天王」に注目した初めての展覧会です。多数の新作から、知られざる四天王の人と画業を紹介します。また師・芳崖を中心に、狩野派の最後を飾る画家たちの作品や、四天王と同じ時代を生き、岡倉覚三(天心)と共に日本画の革新に挑んだ横山大観、下村観山、菱田春草ら日本美術院の作品が一堂に会します。

芳崖の創った多様な近代日本画の水脈を辿り、その魅力あふれる作品をご覧ください。

関連イベント

- 手塚雄二特別館長ギャラリートーク(要観覧券・申込不要)
9月15日(金) 午後1時45分から(2階会場にて)
- 記念講演会「近代日本画と西洋絵画」(聴講無料・申込不要)
9月23日(土) 午後2時から(講堂にて)
講師/三浦篤氏(東京大学教授)
- 特別対談「芳崖四天王コトハジメ」(聴講無料・申込不要)
10月14日(土)午後2時から(講堂にて)
登壇者/塩谷純氏(東京文化財研究所文化財情報資料部 近・現代視覚芸術研究室長) × 椎野晃史(当館学芸員)
- トークサロン「展覧会ができるまで」(要事前申込・ドリンク代別途必要)
10月1日(日)、15日(日) 各回午後5時から(美術館喫茶室ニホにて)
本展を担当した学芸員が、展覧会の苦労話や裏話をお話します。
※申込は当館HPをご確認下さい。

【同時開催企画展】
開館40周年特別企画展 第1弾 県立美術館名品200選
～コレクションが魅せる日本美術の400年 伝統・革新・発展～
10月22日(日)まで
福井県立美術館40年間のコレクション約3,000点から
優品200点を一挙公開!

- 展示替え情報 10月2日(月)、10日(火)に一部の作品を展示替え致します。
- お得なリピーター券! 会期中2回入場できるリピーター券をご用意しました。2回来場される場合はお得なリピーター券をご利用下さい。
- 巡回先(予定) 山梨県立美術館/平成29年11月3日(金・祝)～12月17日(日)
泉屋博古館分館/平成30年9月15日(土)～10月28日(日)



交通のご案内
●福井鉄道・えちぜん鉄道/「田原町駅」下車徒歩約8分
●コミュニティバスすまいる(100円)/JR福井駅西口(6番のりば)より、田原・文京方面線15分「県立美術館前」下車
●京福バス/JR福井駅西口(2番のりば)より、福井総合病院線(23・26系統)「藤島高校前」下車 ※日曜・祝日は運休
●車・タクシー/JR福井駅より約8分、北陸自動車道福井北ICより約15分
ご来館はできるだけ公共交通機関をご利用ください。

芳崖四天王って?!



狩野芳崖「伏龍羅漢図」(部分)
福井県立美術館

福井県立美術館開館
40周年特別企画展

狩野芳崖と四天王

—近代日本画もうひとつの水脈—

9 / 15 金 ▼ 10 / 22 日

休館日●9月19日(火)、25日(月)、10月2日(月)、10日(火)、16日(月)
開館時間●午前9時から午後5時(入館は閉館30分前まで)
※9月15日(金)のみ午前11時開館 ※会期中展示替えがあります。
観覧料●一般・大学生1,000円(団体800円)、
リピーター券1,500円、高校生以下無料。
※団体は20名以上。※障害者手帳等をお持ちの方とその介助者1名半額。
主催●福井県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共催●FBC福井放送
協賛●ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
協力●日本通運



【重要文化財】
狩野芳崖「不動明王」(部分)
東京藝術大学

名品200選展
同時開催中!
同展パスポートのご提示で2割引

福井県立美術館
〒910-0017 福井市文京3-16-1
TEL:0776-25-0452 FAX:0776-25-0459

1977-2017
ANNIVERSARY
40TH

師・狩野芳崖とその弟子「芳崖四天王」の作品を一堂に



本草学研究を志した学者画家

岡不崩

おかふぼう (1869~1940)



岡不崩「白衣観音図」東京・宗慶寺
通期展示

本名は吉壽。明治2年7月13日、福井県大野町で大野藩の藩士の家に生まれる。はじめ狩野友信門に入り、のちに友信の勧めにより芳崖の門を叩く。芳崖没後は、東京美術学校に入学するが、二次に退学し、国画教育に従事する。後半生は本草学に傾倒し、数多くの著書を残す。不崩の作品には鮮やかな草花図が多く、いずれも植物画として正確に描かれている。



高屋肖哲「武帝達磨謁見図」東京・浅草寺
通期展示

「仏画師」を自称した異才

高屋肖哲

たかやしやうてつ (1866~1945)

本姓は足田、本名は徳次郎。慶応2年11月2日に現岐阜県大垣市に士族の子として生まれる。19歳で上京し、芳崖に師事。芳崖没後は東京美術学校に入学し、第回生として卒業するが、自ら「仏画師」と称し、高野山で参籠し各地の寺院を訪ね歩くなど、仏教美術研究を志す。仏教主題を扱った作品を多く残し、特に観音像は生涯を通じて描いている。



高屋肖哲「千児観音図下絵」
金沢美術工芸大学
通期展示



【重要文化財】狩野芳崖「悲母観音 下図」東京藝術大学
10月3日~22日展示

天心の甥、そして芳崖顕彰にあける最大功労者

岡倉秋水

おかぐらしゅうすい (1867~1950)



岡倉秋水「不動明王」個人蔵
通期展示

本多天城

ほんだてんじやう (1867~1946)

本名は佑輔。関宿藩の藩士の子として、江戸深川の藩邸に慶応3年7月29日に生まれる。幼少より絵や彫り物に親しみ、明治18年に芳崖へ入門。芳崖没後は東京美術学校に入学し、卒業後は同校で助教授を務める。天城もまた、秋水と同じく画集の刊行や遺墨展の開催など、師芳崖の顕彰に携わる。



本多天城「蘇武図」東京国立博物館
通期展示



本多天城「山水」川越市立美術館
10月3日~22日展示

本名は寛平。慶応3年12月11日、福井県福井市老松下町に生まれる。岡倉寛三(天心)の6歳年下の甥。芳崖の門に入り早くから鑑画会で活躍する。芳崖没後は東京美術学校に入学するが、岡倉の命を受けて翌年退学し、国画教育に従事する。秋水は芳崖の顕彰に最も積極的に取り組んだ一人で、数回にわたる画集の刊行や遺墨展の開催、芳崖作品の鑑定を行う。



岡倉秋水「矢面」福井県立美術館
通期展示